

前葉体は横広い心臓形で、頂部中央は丸くあるいは陥没状に深く彎し、両翼片の内側辺は生長点の上方において平行であるかあるいは接近する。下部は丸く急に狭って原糸体に移行する。原糸体は 2~3 個の細胞よりなり、基原細胞は円柱状に孢子外殻より突出し、初生仮根はその下側方に着生する。両翼は蝶翼状に斜上し、翼縁は微かに不整波状をなす。翼細胞は不規則な等方形乃至やや長形をなし、分裂裂は明瞭である。翼縁の細胞は等方形で、殆んど側方に突出することなく縁は平滑であり、その縁側は微かに凹形または平坦である。翼縁には密に、両面には疎に乳頭状突起を生じ、乳頭状突起を生ずる縁細胞は特に側方に突出し、またはその傾向がある。乳頭状突起は乳棒形で長さ 70~120  $\mu$ 、根元幅 25~30  $\mu$  あり、中部以上に位置する核および翼細胞と同大の葉緑粒を含む。稀に上下の 2 細胞よりなることがある。仮根は褐色と呈し、葉状部の中部以下に広へ翼部にまで拡つて生じ、上方は中襖を抱いている。中襖は小形で、葉状部の中部以上に生長点に達する倒卵形乃至広倒卵形の襖をなし、2~3 層の細胞よりなる。造卵器は生長点の全面に亘つて多数個生じ、4 系列をなす頸細胞は前列 5~6 個、後列 3~4 個の細胞よりなり、最下位のものは特に大形で頸部の座をなす。造精器は葉状部の底に群生し、球形で直径 60~70  $\mu$  あり、底細胞は環細胞と等幅・等高で、その上膜は陥没して底膜にまで達する。

本種の前葉体は 8) アオガネシダ *Tarachia wilfordii* に類似するが、1) 翼細胞は厚角になる傾向がないこと、2) 仮根は褐色を呈すること、3) 造卵器の頸部は比較的長大であること等によって区別される。

## 〇エイライシヤンについて (久内清孝) Kiyotaka

HISAUCHI; The Japanese name of *Telosma cordata*

芸能界の話題の花 Ye lai hsiang (夜来香) の正体につきいろいろいわれているが、これは中国南部から馬來一帯に見られるトウワタ科の *Telosma cordata* Merr. (= *Pergularia odoratissima* Sm.) で広州植物誌は夜来香を種名と属名とに用いている。和名は渡辺清彦氏が昭和 20 年 (1945) 5 月に昭南植物園発行の南方圏有用植物図説中に図解 (右図) された際に馬來語 (Boenga=花) トンキ (東京) に因んでトンキンカヅラのブンガと命名されているから、これがエイライシヤンの和名となる。

